

★題目・英訳・共同研究者名について

○題目：授乳婦の薬剤使用に対する情報提供スキームの作成

題目英訳：Creation of the information dissemination scheme to a nursing mother's medicine use

○所属：総合メディカル

所属英訳：sogo medical

○共同研究者：青木哲朗、堀場弘明

★分野の選択

(E) 医療系薬学 (15) 医療薬学 (1512) 調剤薬局、在宅医療、地域医療

【目的】 そうごう薬局浦添当山店に隣接する医療モールには複数の診療科クリニックがあり、産婦人科で出産した方が他の内科・整形外科・小児科を利用する場合も多い。そのため、内科・整形外科医師より薬剤の乳汁移行性に関する質問を受けることが多いが、添付文書や三次資料を参考とした使用の可否だけの情報提供となる場合もあり、内容として満足できるものではなかった。今回、使用頻度の高い薬剤を中心にRID(相対的乳児投与率)などの情報と、注意事項をまとめた情報提供スキームを作成し、情報の提供を行ったので報告する。

【方法】 1) インタビューフォームや企業問い合わせにより、乳汁移行性のデータを収集し、乳児の暴露推定量を換算する一覧表(換算表)を作成。2) 乳汁移行性や、乳汁への移行量、授乳婦投与に関する臨床報告などの情報をもとに、情報提供スキームを作成。参考資料として妊娠と薬情報センターHP(国立成育医療研究センター)、海外文献(LactMed等)を使用した。

【結果】 添付文書と三次資料で授乳に関する情報が分かれている薬剤に関しても、作成した「換算表」を用いて乳児暴露量を推定し、より個別化した情報提供を行うことが可能になった。また、情報提供手順をスキーム化することで情報内容の標準化が可能となった。

【考察】 授乳婦に対する薬剤使用の可否が添付文書だけでは評価できない現状では、より効率的に評価する方法の開発は、広範囲に患者を応需する調剤薬局にとって有用であり、医薬連携を意識した質の高い情報提供のできる薬局として、今後も貢献したいと考える。